

村田製作所の知財戦略：世界首位を支える「特許報奨制度」の全貌

1. 報奨金の規模と投資

報奨金総額が10年で
2.5倍に増加

2015年度と比較し、2025年度には報奨金の拡充規模が2.5倍に適し、知財強化への強い意志を示しています。



1案件につき最大
100万円を支給

「出願時」「登録時」「事業貢献時」「ライセンス収入時」の各フェーズで報奨が発生する仕組みです。



2. 多段階の報奨構造

発明のライフサイクルに
応じた4段階報酬



知財強化の結果、パテント・リザルト社の調査で世界首位、クラリベイト社の「Top 100 グローバル・イノベーター」

MLCC特許総合力で
世界1位を維持



知財強化の結果、パラバイト社の「Top 100 グローバル・イノベーター」を5年連続受賞しています。



登録前の「発明段階」から評価

2024年1月導入の新制度では、特許登録を待たずに、将来のビジネス買収が期待される「奨」の伏線から評価対象としています。

3. 公正性を支える組織体制

発明報奨審議委員会
による厳正な審査



報奨の内容を審議し、従業員からの具備申込附帯も遡及することで、評価の透明性と公正性を担保しています。

パテントリーダー
制度の導入



各事業部・開発部門に知財担当の担当者を配置し、発明者と知財部門の連携を強化しています。

4. 戦略的背景：中韓勢との競争

競合の猛追と市場シェアの変動



村田製作所 中国企業のMLCCシェアが約5%から10%へ上昇し、サムスン電機の技術力も向上するなど、技術格差が縮まっています。

MLCC市場における競合状況

項目	村田製作所	競合状況
MLCC世界シェア	約40%	中国企業が5%→10%へ拡大
特許総合力順位	世界1位	2位:サムスン電機、5位:太僕得電
技術格差(対中国)	7~10年のリード	差は縮まりつつあると認識